



全労連青年部ニュース

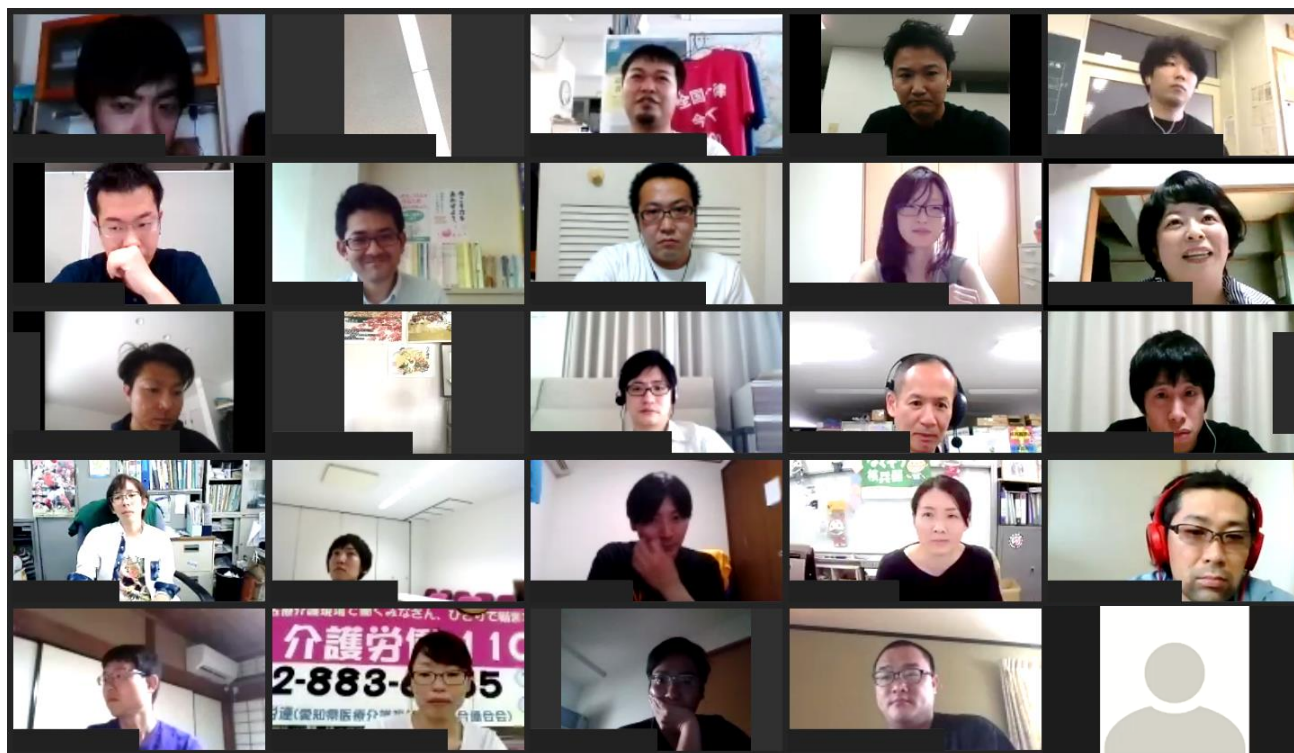
YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

初のウェブセミナー開催！

「今こそ集まろう、つながろう、未来をつくるのは
私たち青年だ！ウェブセミナーin全労連青年部」



全労連青年部は6月6日（土）、初の試みとなるウェブセミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で全国規模の集会の開催が難しい中、「できる方法で集まろう」とオンライン会議システムを使用して、11 単産・16 地方 69 人の青年たちが結集しました。

これからの活動につながるセミナーに

当日は中岡健太常任委員の司会でスタート。保科雄治部長は主催者あいさつで、「生活や雇用が新型コロナウイルスに脅かされている。社会保障政策の誤りも明らかになり、政府の姿勢に対しみんな疑問を感じている。自分は日本医労連に所属しているが、今年の夏季一時金は全体的にとっても低く、厳しい状況。今こそ労働組合が力を合わせるとき。困難を抱えている青年がなかなか集まらず、活動も制限されている。神奈川で予定していたユニアカの現地開催も断念した。しかし、こうして集まれるのはウェブの強み。交流を深めて活動につなげていこう」と訴えました。

周りの青年に声をかけ、労働組合に結集してコロナ禍を乗り越えよう！

「コロナ禍に克つ 3つのレシピ～労働組合だからできること～」と題して、全労連の黒澤幸一事務局次長が講演しました。コロナ禍で、医療・介護や公務公共サービスの脆弱さが明白になり、この事態に対応しきれてい

各地でがんばる青年の声

講演に引き続き、オンライン会議システムのブレイクアウトセッション機能を使い分散会をおこないました。8グループに分かれ、職場の状況や感じたことなどを交流しました。内容を一部紹介します。

- ・「職場でクラスターが発生して風評被害を受けている。一日 300 万円の赤字」(介護福祉士・神奈川)
- ・「医療現場ではマスクが不足しており、一週間で1枚を使いまわしている。現場からは心配の声が上がっている。また、病院経営の悪化から賃下げが起こっている。もともと厳しい状況(医療改悪)に加え受診抑制が働いている」(作業療法士・愛知)
- ・「外出自粛でコープの利用者が増え、前年比 120%の売り上げとなっている。現場はもともと人手不足のため大変だ。暑い中マスクを着用しての宅配であるため熱中症の危険もある」(コープドライバー・岐阜)
- ・「web 授業の準備で教員は休日出勤を余儀なくされており、不満が出ている。給与カットは聞かないが労働負荷は増している。私は私立高校で働いているが、授業がなくても非正規教員にも賃金を出すことを決定。この辺りに公立との格差を感じる」(私立高校教員・大阪)
- ・「観光業は仕事が9割減。雇調金などの相談がある。多くの店舗がコロナ禍で閉店。その中で賃金カットされる労働者。組合の力で休業補償を10割にしたなど前進もあるが、全体的にはやはり押されている。どうにかしたい」(全国一般・本部)

ほかにも、仕事の意義を感じる場面は?という問いかけに「一斉休校で、生活リズムが乱れる子、不登校傾向になる子がいる。心のケアができるように学校現場は新しい形を考えないといけない。ICTが提唱されているが、そこからこぼれ落ちた子はどうするのか。2020年は入試改革の年でもある、そのあたりに教員の意義がある」と、人と人とが通じることによって仕事の意味があると答える教員の青年や、組合活動に関しての交流では「現場では、新歓が中止に(10年連続新人加入率100%)」(医労連・愛知)、「新歓ができていない。プレゼント作戦を予定している。つながりをつくりたい」(勤医労・北海道)、「感染対策従事手当として一日4,000円の支給を団体交渉で実現させた」(全医労・本部)、「文化と労働者も守るべき存在。税金の使い方に注目。Go To キャンペーンなどの予算の使い方に疑問。違和感、おかしさを仲間に知らせていく」(全厚労・本部)といった声が聞かれました。

新しい仲間と出会えた!今度はみんなで会って話したい

最後に、稲葉美奈子書記長があいさつ。「この間、コロナで集まれず青年部らしい活動ができなくなっている。青年春闘交流集会やユニアカが開催できず残念。とにかく話す場がほしい、みんなの状況を知りたい、何かしたいという声に後押しされて今回の開催に至った。今回、ウェブだから参加で



リモート懇親会では趣味や特技の披露も!顔を合わすとやっぱり笑顔に♪

きたという人、初めてつながれた人もいる。ウェブの強みはあるが、そうは言ってもやっぱり直で会って話を聞きたいと思う。労働組合だからできること、そういうものをみんな持っていると思う。青年部としてもどんどん共有していきたい」と締めくくりました。

セミナー終了後は、懇親会を開催しました。参加者それぞれがお菓子やお茶、お酒を準備して、おすすめの品を紹介したり、自室で趣味や特技を披露したりと、普段なかなか見ることができない青年たちの一面を垣間見ることができました。「今度は会って話したいね」との感想も出て、親睦を深めることができた懇親会となりました。

ウェブセミナーに参加してみても...

ウェブセミナー参加者に向けてオンラインアンケートを実施しました。アンケートでは、「はじめて全国規模の企画に参加したが、楽しかった。全国集会があれば参加してみたい」「コロナ禍の中でも、久しぶりにみんなの顔が見られてよかった!」「セミナーがよいきっかけになり、仲間の青年たちと議論が深まった」「コロナの影響でストレスを感じながら働いていたが、今の状況を振り返るきっかけになった」「家庭や仕事の事情でなかなか全国行事に参加できない人には参加しやすくてよかった」「自宅参加だったので趣味を紹介できた。自分が春闘を頑張る意味はこのためだ!と伝えることができた」「青年は労働環境を変える力を持っていることを伝えていきたい」などの感想が寄せられました。

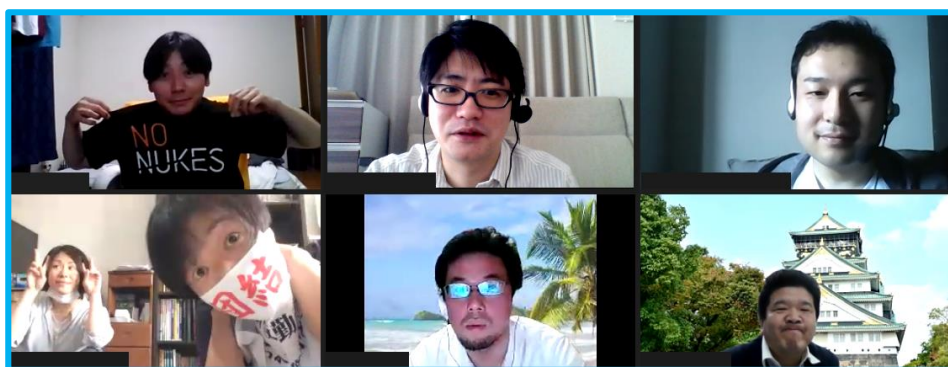
また、講演の感想として「政治がしっかりしてないとだめだと思ったのと同時に、組合員が大きく声を上げていかなければと思った」「今の日本の現状がよくわかった。労働組合は今こそ出番だと思う」「しっかりデータがあって説得力がすごい。福祉教育国家へのシフトは絶対に必要」「文化・芸術を守るには平和な生活を守らなければと思った」「自分たちの今後の運動に確信を持てた」「税金の使い方について非常に関心が高くなっていると思う。私たち労働組合の主張が届きやすい情勢であると思うので、チャンスと捉えて活動していきたい」などの声が寄せられました。

全体として、「また企画してほしい」という声が多くありました。今こそ『集まり、つながり、青年が社会の在り方を考えるきっかけや場所が求められている』と強く感じる事ができたウェブセミナーでした。



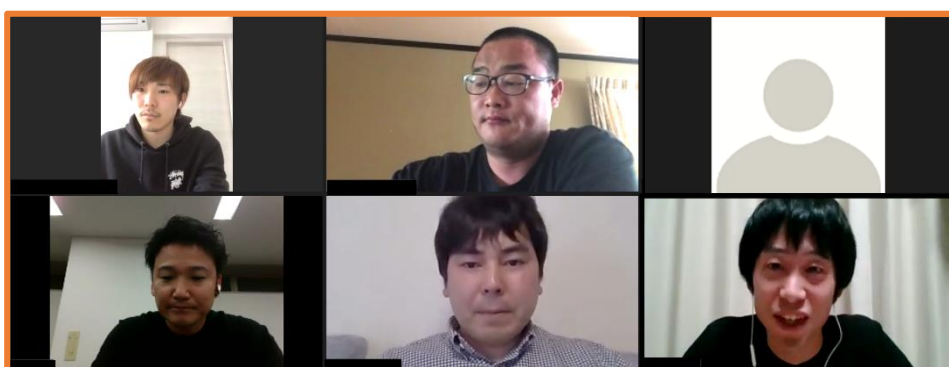
分散会の様子を紹介します♪

はじめましての人も久しぶりの人も各グループに分かれて顔を合わせて交流しました。悩みや問題意識を話しながらも、笑顔がこぼれる場面もありました^^

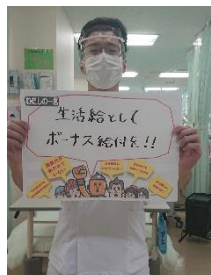


▲数人で集まってウェブセミナーに参加した仲間も! (兵庫)





★「若者の要求アピール大作戦 in メーカー」
へのご協力ありがとうございました！



各地の青年の声は

↓の各 SNS で見ることができます。

【<https://www.facebook.com/51sakusen/>】

【<https://twitter.com/sakusen51?lang=ja>】

【<https://www.instagram.com/51sakusen/>】

★今年も「全労連青年部組織実態調査」を実施します。ご協力よろしくお願ひいたします。

★青年活動のとりくみやニュースをお寄せください！ 厳しい状況でも励まし合ひましょ

う (^▽^)/

宛先は < youth@zenroren.gr.jp > まで♪

